**登別市市民自治推進委員会議事録**

（敬称略）

◆ 開催日時：令和２年１月２１日（火）１８：３０～２０：３０

◆ 開催場所：登別市民会館　２階　中ホール

◆ 出席委員：２７名（雨洗委員、今委員、佐藤委員、田渕委員、岩浅委員、川島委員、江口委員、久保田委員、鈴木委員、吉田委員、近井委員、宮下委員、川田委員、冨永委員、工藤委員、西尾委員、川村委員、磯田委員、佐藤委員、安宅委員、合田委員、仲川委員、山田委員、中原委員、稲葉委員、工藤委員、髙橋委員）

◆ 欠席委員：１２名（鎌田委員、和泉委員、丸委員、遠藤委員、安達委員、小川委員、山下委員、荒川委員、谷﨑委員、川島委員、成田委員、渡部委員）

◆ 協働推進庁内委員：沼田部会長、山本副部会長、千葉部会長、土門副部会長、森元部会長、大澤副部会長、近藤部会長、重山副部会長、田中部会長、大越副部会長

◆ 事 務 局：伊藤副市長、梅田市民生活部長

　　　　　　 大越市民協働グループ総括主幹、伊藤主査、塚崎主任、今野担当員、安倍担当員

**【（１）市役所本庁舎の建替えについて（進捗状況）】**

　総務部総務グループ総括主幹より、市役所本庁舎建替えの基本計画中間案を基に説明を行った

（新庁舎の検討経緯について）

　・平成30年３月に登別市本庁舎建設基本構想案を策定し、市民説明会やパブ

リックコメントを行った。ここでの意見を踏まえ、平成30年９月に登別市

本庁舎建設基本構想案を策定している。

　・今年度から登別市本庁舎建設基本計画策定業務を開始し、昨年10月末から

の地区懇談会などで中間案を報告した。来年中旬からパブリックコメント

を実施し、３月に基本計画を完成させる予定。

（建設場所について）

　・基本構想において、将来の都市機能への影響度、災害対応の強化、交通誘

導の改善などを考慮し、市民が来庁しやすい最善の場所として、現庁舎敷地

内としている。

・建設場所は津波浸水区域内に位置するが、災害対策機能、非常用電源設備、

備蓄倉庫を高層階に備えるなど、津波対策への配慮により対応可能と考え

ている。

（建物の配置について）

　・既存の本庁舎を残し、裏にある第二庁舎を解体したあと、空いた敷地に新

庁舎を建設する計画。仮設の庁舎を設けないことから、事業費の抑制を図

れると考えている。

・３～５階建ての案があるが、利便性や周辺環境への配慮、コスト面から４

階建てが最適と考えている。４階建ては、災害被害機能設備スペースを上

階に配置することができ、かつ窓口などの日常的な市民の利便性が確保で

きる。

　・４階建ての建物を今の第二庁舎の敷地に建てた時の日影図は、冬至の夕方

には影が大きくなり小学校にかかるが、法律的なものはクリアしている。

　・建物の構造形式は、耐震構造、免震構造、耐震構造の３つに区分される。

どの形式をとっても目標の耐震性、安全性は確保されるが、庁舎の規模や

建設コストから考え、一般的な耐震構造が最適だと考えている。

　・建物の構造種別は、主に鉄筋コンクリート、鉄骨鉄筋コンクリート、鉄骨

造といった区分があるが、実績が豊富であり、耐久性及び耐火性に優れる

鉄筋コンクリート造を主要構造の候補として考えている。

（防災機能について）

・防災対策本部、非常用発電機の設置、備蓄倉庫の設置などはこれから導入

　を検討する。他にも、耐震性の高い貯水槽の設置や、マンホールトイレ、

非常用の防災便槽などの設置も今後検討していきたい。

（執務室のレイアウトについて）

・課や係ごとに島を構成する従来型のレイアウトから、ユニバーサルレイア

　ウトを導入して省スペース化を図ることを検討する。導入することにより、

５%～10%の省スペース化が可能と考えている。

・ユニバーサルレイアウトを導入すると、デスクを動かすのではなく人が動

くという考えになり、組織変更などにもフレキシブルに対応が可能となる。

（議会機能について）

・議会の配置は、登別市が採用している直列配置型のほか、対面配置型、円

形配置型などがある。床の形式は、床に段差を設けないフラット式や、床

に段をつけることで見通しが良くなる段床式がある。今後どの形式が登別

市に合っているのか検討する。

（市民スペースについて）

・新庁舎は、市民が気軽に集える場所として、市民活動を応援し、交流や集

いを創出する、協働のまちづくりの拠点として活用できる雰囲気作りが求

められると考えている。

　・市民ロビー、カフェテラス、展示コーナー、コミュニティホールなど、ま

ちに合った市民スペースのあり方がそれぞれ違うため、登別市のニーズに

合った使い方を検討していく。

　・他のまちでは、展示スペース、会議ができるコミュニティホール、展望ロ

ビー、多目的室などを造っている自治体が多く見られ、最近は自習スペー

ス、図書コーナーを併設しているところが見受けられる。

（今後について）

・令和２年度に予定している中期財政計画の見直しによって、いつ着工して、

いつ完成するのかというスケジュールを示す。

**【（２）登別市総合計画第３期基本計画第１次実施計画の達成状況について】**

総務部企画調整グループ総括主幹から、下記のとおり進捗状況の説明があっ

た。

（基本計画における各施策の指標の設定について）

・総合計画第３期基本計画は、平成27年８月に提言書を提出するまでの約１

年５か月にわたり、多くの方に参加いただき議論が行われ、平成28年３月

に策定されている。

・第３期基本計画は、第２期基本計画に引き続き、各施策の目標達成につな

がると考えられる象徴的な指標を設定し、目標値を定め、達成度を測ると

ともに、まちづくり意識調査などで政策、施策の市民満足度を測り評価を

行うこととしている。

（平成30年度の指標の進捗状況について）

・進捗状況を検証するための評価基準を、達成、進展、継続、評価なしの５

つに区分している。達成は、平成30年度の実績値が平成37年度の目標を

上回っているもの、進展は、実績値が平成37年度の目標値を下回っている

が、基準値を上回っているもの、継続は、実績値が基準値と同程度のもの、

遅延は、実績値が基準値を大きく下回っているもの、評価なしは、実績値

がないもの。

・指標数は108項目あり、達成が29項目26.9%、進展が35項目で32.4%、

継続が22項目で15.7%となっている。

第１章　やさしさと共生するまち

　・達成が、若い世代の健康診査の受診数、子育て支援拠点の設置数など８項

目、進展は、小地域ネットワーク参加町内会数、健康診査の受診率、乳が

ん検診の受診率など12項目、遅延は、大腸がん検診の受診率など５項目に

なっている。

・達成となった子育て支援施設の設置数は、平成27年度の基準値が３か所、

平成37年度の目標値が４か所のところ、平成30年度の鷲別こども支援セ

ンターの開設により、中央子育て支援センター、登別子育て支援センター、

富岸子育て広場と合わせて４か所になっている。

　・この事業は、地域において子育て、親子の交流を促進する場所を設けるこ

とにより、地域の子育て支援の充実を図り、子育てに関する不安感などを

緩和して、子どもの健やかな育ちを支援することを目的に実施している。

第２章　自然とともに暮らすまち

　・達成が、キウシト湿原における観察会の参加者数や市内の犯罪発生件数な

ど６項目、進展は、最終処分場の年間埋め立て量、不法投棄件数など４項

目、遅延は、家庭系ごみの市民１人１日当たりの年間排出量、事業系ごみ

の年間排出量など６項目になっている。

・達成となった交通事故の件数は、平成26年度の基準値が106件、平成37

年度の目標値が90件のところ、平成29年度が64件、平成30年度は52

件と減少傾向にある。

　・この事業は、市民の交通安全意識の高揚と交通事故の防止を図ることによ

り、安全、安心に暮らすことができることを目的としている。人と旗の波

啓発、新入学児童に対する交通安全啓発運動など、毎年度、地域の方と連

携して地道に取り組んできた成果だと思っている。

第３章　大地に根ざしたたくましい産業が躍動するまち

　・達成が、製造品出荷額、起業件数など５項目、進展が、年間の宿泊延べ数、

連泊率など５項目、遅延がなしになっている。

・進展となった観光入込客数は、平成26年度の基準値が353万６千人、平成

37年度の目標値が446万人のところ、平成29年度の実績値は404万８千

人、平成30年度は378万３千人で、胆振東部地震などの影響もあり、前年

度と比較して26万６千人の減少となっている。引き続き、コンベンション

協会などと連携して誘客措置を図っていく。

・今年の４月24日、白老町に国で年間100万人の来場を目標としているウポ

ポイが開設されるが、登別市でもアイヌ政策推進交付金を活用して、都市

間バスの増便や、令和４年度開設予定の（仮称）登別市情報発信拠点など

の整備を行っていく。

第４章　調和の中でふるさとを演出するまち

・達成が、景観形成に関する情報発信の回数の１項目、進展が、長寿命化計

画に基づく都市公園における遊具の健全度など７項目、遅延が、公共施設

等への草花、樹木の植栽実施町内会の１項目となっている。

・遅延となった公共施設等への草花、樹木の植栽実施町内会数は、平成26年

度の基準値が58町内会、平成37年度の目標値が67町内会のところ、平成

29年度の実績値が54町内会、平成30年度は52町内会と減少する結果と

なった。

　・この事業は、緑化の推進やみどりに対する意識の向上を図るため、町内会

の協力をいただくことにより、沿道美化やみどりの講演会などの各種事業

を行っている。

・遅延の理由は、町内会の人手不足などが考えられているが、今後とも継続し

て、市民や団体と協働で取り組んでいきたい。

第５章　豊かな個性と人間性をはぐくむまち

・達成が、児童、生徒のボランティア活動、地域活動に取り組んでいる学校の割合など４項目、進展が、部活動加入生徒の割合など４項目、遅延が、生涯学習事業の参加者数など４項目になっている。

・遅延となっている体育施設の利用者数は、平成26年度の基準値が27万7,076人、平成37年度の目標値が27万８千人のところ、平成29年度の実績値は25万5,103人、平成30年度の目標値は25万2,569人と減少している。

・この事業は、体育施設を整備、維持管理し、市民がスポーツに親しむ生涯スポーツを推進し、健康で活力ある生活の実現を目指すものである。

・スポーツの振興や緑化活動の充実、緑化活動の充実、健康の増進、健全な心身の育成などを図るために、引き続き事業を行う。

第６章　担い合うまちづくり

・達成が、市民自治推進委員会開催回数、国際理解講座の参加者数など５項

目、進展が、登別市市民活動センター利用団体数など４項目、遅延が、ち

ょっと暮らし利用者など１項目となっている。

・達成となった国際理解講座の参加者数は、平成26年度の基準値が53人、

平成37年度の目標値が100人のところ、平成29年度の実績値が169人、

平成30年度は、駐日デンマーク大使を講師に招いて中学校などで講演を依

頼したことにより、447人と大幅に増えている。今後も各学校等で開催を

検討していきたいと考えている。

**【（３）「第２期登別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定状況について】**

総務部企画調整グループ企画主幹から、資料を配布のうえ、下記のとおり説明があった。

（総合戦略について）

　・平成27年度に、第３期基本計画につながるものとして、特に人口減少に対

応していくというテーマで策定した戦略。５カ年計画となっており、今年

度が戦略の最終年度となっている。

・国は、次期総合戦略を策定するように促すとともに、参考にすべき国の戦

略が12月に示されたところである。

（人口の状況について）

・市の人口は平成28年中に５万人を割っている。

・高齢者は徐々に増え続け、本市では高齢者を生産年齢人口１人が支える時代が近付いている。

・ただ、高齢者の人口も令和２年度をピークに下がっていくと試算されてい

る。

・社会増減は、このまちに入ってきた、出て行ったという差分になる。この幅が広ければ広いほど社会減が多いことになる。平成27年度に戦略を立てて以降、幅が狭まっているように見えるが、なかなかプラスに転じるのは難しいという状況。

・自然減は、お亡くなりになった方と産まれた方の差になる。徐々に間隔が狭くなっているため、本市の人口減少の大きな要因として、お亡くなりになる方が多いことが見て取れる。

・合計特殊出生率は、１人の女性が一生に産む子どもの平均数で、戦略を立てた頃から全国平均を上回っていたが、平成30年度は少し下がっている。どうしても増減する数値になり、１年だけを見て判断するものではないが、来年以降どうなるか注視しなくてはいけない。

・国立社会保障人口問題研究所が国勢調査を基に登別市の人口推移を推計した、５年に１回公表される数値では、平成30年度を見るとさらに人口減少が厳しくなるのではないかという推計になる。戦略で掲げた目標値は、令和12年までに合計特殊出生率を1.8に、令和22年までに２に上昇させるという数値になる。

・子どもを育てやすいまちをつくったうえで、移住など何らかの手段で社会減を20人緩和し、人口減少をおおむね２割は緩和させたいという目標を立てているが、実際はなかなか難しい。

・令和元年10月１日現在の登別市の人口は４万7,795人で、国の推計よりは

良いが、胸を張って良いと言える数字ではなく、おおむね国が推計してい

るペースくらいで推移している。

・新しい戦略においても、合計特殊出生率を上げること、移住を増やすこと

　を念頭に、目標の水準は変えないつもりでいるが、厳しい方の推計をベー

スに現在試算をしている。

（新たな視点について）

　・国は、今の戦略で根付いた地方創生の意識や取り組みを継続してほしいと

考えている。市も５つの基本目標と具体施策はこのまま継続する意向であ

るが、一方、社会情勢の変化に基づく新たな視点を明文化したいと考えて

いる。

関係人口

・関係人口は、国が言っている新たな定義で、まちに愛着を持っている人を

増やそうという取り組み。北海道では北海道応援団会議を展開しており、

登別市もふるさと会等を持っている。

・ふるさと納税も増えており、このような仕組みを活用しながら、登別市の

ファンを増やしていく視点を持たなければいけない。

持続可能なまちづくり

・持続可能なまちづくりということで、広域連合、生活水準を守る、高齢者

の見守り、５年前には考えてもいなかった免許返納問題も新たに出てきて

いる。

　・そういった中で公共交通をどう維持していくかという課題もあり、人口減

少をある程度受け入れ、身の丈に合った行政運営を考えていかなければな

らないという考えで視点に加えている。

未来を支える人づくり

　・まちづくりには、人、人作りが必要ということでこれまでもやってきた。

・Uターンで人を呼び込んだり、英語教育やICT教育を展開して、子どもた

ちに愛着をもってもらって、できれば戻ってきてほしいという願いを込め、

視点に加えている。

（雇用情勢の変化について）

　・以前は、求人倍率が高くなっている局面があったが、今は労働者不足が叫

ばれている。どのような視点を持てば良いのか次のとおり考えた。

多様な人材が活躍できる環境づくり

・これまでの基本計画にも、女性、高齢者、障がいをお持ちの方など、様々

な雇用対策等を掲げているが、さらに進める必要があると考えている。

・ソサエティ５．０は、AI、IOT、IOEといったものを指すが、コンピュー

タを利用して新たな取り組みができないのか、労働者不足を解消できない

のかという取り組みになる。

外国人材の受け入れ拡大

・国でも、いろいろな法改正に伴って外国人材の受け入れ基盤を整えている

ため、このような視点も必要だと思っている。

　・市で、外国人材を積極的に受け入れるという判断をした訳ではなく、この

ような視点を持って臨まなければいけないという意味だということで理解

してほしい。

グローバル化の進展

　・今年はオリンピック、パラリンピックがあり、来年以降もワールドマスタ

ーズゲームズ関西、令和７年には大阪万博が行われ、目白押しである。

・登別市も世界に目を向けていかなければならないと思っている。特に今年

はウポポイのオープンも絡んでいるため、積極的に取組みたい。

SDGs

　・SDGsは、2015年に国連サミットで採択された、17のゴールと169のター

ゲットという世界的な目標。多様性を持った持続可能な開発目標というこ

とで、いろいろな内容が掲げられているが、しっかり明文化していこうと

考えている。

・国連で採択された内容は目新しいものではなく、これまで行政が取り組ん

できたものと基本的には方向性が一緒である。総合戦略で掲げている施策

がSDGsの何に当たるのか明文化することで、意識の高揚を図ることにつ

ながると考えている。

（今後について）

　・これからパブリックコメント等を受けて成案にしていくが、人口減少対策

にどのような検討をした方が良いか意見があったら、２月中旬を目途に頂

戴したい。

　・市民自治推進委員会の取組テーマになりそうな内容は、関係する部会にフ

ィードバックし、企画調整グループとどうしたら良いまちになるか話をす

るのも面白い取り組みだと考えている。

（総合計画、総合戦略についての意見・質問について）

　質問：総合計画と総合戦略が、どういう位置付けで、どう関わり動いている

のか説明してほしい。

　回答：総合計画は、10年先を見据えて作った市の全体的な羅針盤となるもの

で、最上位の計画になる。戦略は、その中から特に人口減少対策に寄

与する部分を柱立てして掲げたものになり、あくまでも基本計画が上

位で、その下に人口減少のための総合戦略があるという位置付けにな

る。

　質問：総合戦略はこれからもずっと続くという考えか。

　回答：もし戦略がなかったとしても人口減少することは分かっており、対応しなければならないということは認識していた。国では、地方創生という名を冠して補助金をセットしたため、全国の自治体でほぼ戦略を作っている。

　　　　例えば国で、戦略はもういらない、補助金はないとなった時はどうするか考えなくてはいけないが、人口減少へどう対応するかはずっと考えていかなければいけないことだと思っている。

　意見：部活の種目によって生徒の偏りがあり、自分の学校単独でチーム編成

ができないこともある。子どもたちのスポーツに対する目がどう向い

ているのか、今後どうなっているのかが気になる。

　回答：学校単独ではなかなか編成できないという課題は聞いており、何かし

なくてはいけないと認識している。誤解を恐れず言うと、編成できな

いのであれば、室蘭と学校を統廃合するべきなのか、学校をまたいで

参加できるようにするべきなのか、手法を考えていかなければいけな

いと考えている。

　意見：人口を増やすには、育てる、産んでもらうことが前提であるため、子どもを育てていく環境がある程度整っていなくてはいけない。

　　　　産むことに関しては、市内の生産人口がどれくらいいて、子どもを産むことに対する意識がどうなっているのかを調査して、これからの施策にどう生かすか考えるべきだと思っている。

回答：行政として、結婚=出産とか、子どもを産むという前提に立つのはなかなか難しいところもあるため、言葉は選んでいかなければいけないと思っている。

　　　　お金を支給する直接的な補助はなかなか難しいが、少しでも子どもを産みやすく、登別は良いなと思ってもらえる対策を考えていかなければいけないと思っている。

　質問：人口減を止める、もしくは人口増を考えるに当たって、自治体レベルで歯止めができるのかが疑問で、国に対しての意見になってくると思う。今は平均して世界的に潤っている国だと思うが、それでも人口が減り続けているのは、個人的に景気が悪いとか、子どもはいらないとか各家庭の考えがあると思う。その考えを越すような大きな提案をして良いのか。

　回答：日本全体が人口減少している中で、もし登別市だけ人口が増えたとす

れば、恐らくほかのまちから奪っているだけになると思う。そのため、

国はしっかりやらなくてはいけないし、言っていかなければならない

と認識している。

　　　　一方で、北海道の戦略では札幌への一極集中の課題を掲げており、地

方にも魅力を見いだし、一極集中しないまちづくりが必要ではないか

ということは、国も認識をしている。

　　　　価値観が多様化している中で、急に皆が子どもを産むこともないし、

登別市への移住が増える訳でもないが、少しでもこのまちに住み続け

たい、住んでみたいと思えるまちにすることが、一極集中を打破する

方法だと思う。

　　　　子どもたちが進学にする時に外に出てしまって、戻ってこないから教

育にお金をかけても意味がないという声もあるが、まちに愛着を持つ

ことで、まちに戻って就職することを考えるきっかけにもなると思っ

ている。

　　　　特効薬がないのは重々承知しているが、どうしたらこのまちが魅力を

出すのかというところを視点に考えていただければありがたい。

質問：ふるさと納税が急激に増えたが、都市によっては大きな税収となって、まちづくりに関わると思う。９億円増えたと聞いているが、出たお金との差を教えてほしい。

回答：去年調べた時は、登別市からは10分の１くらいの金額しか出ていなかった。登別市民が納税した額よりもずっと大きな額を寄付していただいているという現状で、多分その傾向は変わっていないと思う。首都圏から相当な寄付をいただいている。

**【（４）市民自治推進委員会各部会の取組状況報告及び情報交換について】**

|  |
| --- |
| ぬくもり部会 |
| これまでの取り組み | ・去年の９月28日、花づくりネットワークでぬくもり収穫祭を実施した。晴天に恵まれ、139名の方に参加いただいた。・室蘭民報にも結果の報告をしたが、多くの方に主旨を理解いただくため、年齢、障がいの有無に関わらず来てほしいという想いがあった。・収穫祭は、室蘭登別心身障がい者職親会が長年やっていて、たまたま部会に声がかかったため、一緒に進めることになった。・緑陽中学校、青嶺高校、北斗文化学園の生徒22名にお手伝いをいただき、若い方と一緒に取り組めたのが一番良かったと思っている。 |
| 今後予定している取り組み | ・次回の会議で、どんなことをやったら良いか議論をする。　ぬくもり部会は福祉に絡むため、内容を詰めて次のテーマにしていればと思っている。・健康のテーマで問題にしていた特定健診の受診率は、これからもサポートしていければと思っている。 |

|  |
| --- |
| 防災・環境部会 |
| これまでの取り組み | ・昨年７月20日に実施した登別市総合防災訓練で、部会で作成した防災グッズリストを配布した。一部、現物も提示して、非常に好評を得た。・グッズを用意してるか聞いたら30～40%くらいしか用意していない印象を受けたため、今後イベントで多く配布ができるようにしたい。 |
| 今後予定している取り組み | ・第３期基本計画の中ではごみ問題に取り組みたいと思っている。・平成29年度に避難訓練の実施状況を調査したが、平成30年、令和元年の２年間分も現在集計中。できれば３月中に３年間の実績を集計して、今年９月頃の全市一斉避難訓練で有効活用したい。 |

|  |
| --- |
| 産業躍動部会 |
| これまでの取り組み | ・令和元年11月17日、登別消費者協会と合同で食の安全・安心セミナー料理講習会を開催した。登別温泉で活躍している調理師である、登庖会青年部に講師を務めていただいた。・本格的な料理を通して、のぼりべつ牛乳や登別豚をはじめとした地場産食材の消費拡大に努め、講習会は好評のうちに終わった。また、登庖会から、今後も継続的に多くの市民に向けて取り組みを行っていきたいと好意的なお話をいただいた。・案として、登庖会が行っているメニューの試食会を部会が市民に仲介し、観光業、宿泊業の取り組みを知っていただくことで、市民の登別温泉利用の需要を高めることを検討している。 |
| 今後予定している取り組み | ・今後は、登別市の歴史や自然、産業を巡るウオーキングツアーの観光商品化に、地域の事業者にも参加いただき、観光産業の躍動を掲げていきたい。・昨年、都市調和部会の部会員にも参画いただき、登別駅、登別漁港の漁の風景などを体感した。外国人旅行者にとってはかなり魅力あるツアーになるのではないかと感じている。・最近は、新たな登別の食材に焦点を当てて、新たなメニューを開発しようという話が出た。食材の１つとして、市内の卵を産まなくなった鶏を流通させて、食材として開発できないか今後進めていく。 |

|  |
| --- |
| 都市調和部会 |
| これまでの取り組み | ・６月２日の部会で、テーマの決定と今後の部会の進め方について話し合いがもたれた。市の公共的な施設のあり方を考えるというテーマで、１つに絞るのではなく、本庁舎建替えと道の駅建設について、担当部署を交えて話し合いを行っている。 |
| 今後予定している取り組み | ・今日の本庁舎建替えの中間案を踏まえ、２月７日開催予定の部会で意見交換や不明点の確認を行う。 |

|  |
| --- |
| 育み部会 |
| これまでの取り組み | ・昨年度、あまり利用されていない公園があるという状況を改善するため、市に１つの提案をした。・のびのび公園の利活用に関する取り組みはモデルケース的なもので、地域住民の理解と協力を得て、児童がボール遊びできる期間を２カ月間設けた。・児童の利用状況は低調だったが、特に大きな問題もなく実施できたことから、今年度は５カ月間実施し、実施後にアンケートを行った。・結果、若草小学校の児童の利用率が大きく伸び、試みの主旨が浸透してきたという手応えを得たため、草刈りの回数を増やすなどの整備に力を注いで利用率を高め、ケースを成功に導きたいと考えている。 |
| 今後予定している取り組み | ・現在のメインテーマは、市立図書館のあり方ということで、市民にもっと本を読むことを広め、市立図書館にもっと人を集めることを狙いとしている。・学校の図書館活動の活性化の取り組みはその一環であり、子どもたちがもっと本を読むこと、学校の図書室を活用する習慣を身につけることを目指している。・今年度は、学校の図書ボランティアの活動に関するアンケート調査を実施し、各校のボランティアの活動状況を把握するとともに、調査結果と考察をまとめて各校に情報提供を行った。・11月から12月にかけて市内13校の小中学校の図書館活動の参観を実施し、担当教諭や学校司書、図書ボランティア、図書委員から話を伺い、活動状況を把握した。・今後は調査や参観の結果を基に、学校の図書館活動の活性化について部会としてできることを検討する。 |

|  |
| --- |
| まちづくり部会 |
| これまでの取り組み | ・町内会活動に焦点を当て、連合町内会事務局長を部会に招いて、町内会活動の悩みなどを伺った。・町内会活動を市民に深く理解してもらうための１つの手段として、チラシを作って市民に理解してもらうことを考えた。 |
| 今後予定している取り組み | ・未加入者にも町内会を理解してもらい、少しでも加入率を高めていくことを、部会としてお手伝いかできないかという想いでチラシを作成中である。 |

（委員長のまとめ）

・17日に部会長・副部会長会議を実施し、今後どのように取り組んだら良いか意見を伺った中で、国民健康保険グループから、入院と外来を合わせた医療費のベスト５の資料をもらったが、高血圧、糖尿病、慢性腎不全という３つの生活習慣病が入っていた。生活習慣病は市民の意識の問題であるため、健康というテーマにはこれからも取り組んでいきたい。

・それと同時に、基本計画に則った内容をもう１度精査して、何に取り組んだら良いかということを検討してもらいたい。

・何に取り組むか悩んでいる部会は、庁内委員に、行政と市民が協働で取り組

みやすい部分はどこなのか、アドバイスをもらうのもありだと思っている。市民と行政両方の主導で進めていく委員会でありたいと思うため、上手に拾ってほしい。

・市民自治推進委員会は、まちづくりをしていくうえで一番、市民の意見を拾

う会議体になると思う。いろいろな情報を把握していなくてはいけないし、

違うところで違う方向で動いてしまってはまちづくりは進まないと思うため、

情報提供できる環境をつくっていきたいと思っている。

**【JCHO登別病院について】**

部会長・副部会長会議で、同病院について情報提供がほしいという意見が出たため、保健福祉部健康推進グループの総括主幹から次のとおり情報提供を行った。

　・JCHO登別病院は、現在登別東町に新築工事を進めており、先日、同病院

から４月の外来診療開始日についての情報提供があった。

　・新病院の外来診療の開始日は、４月13日（月）を予定していると聞いてお

り、それに伴い、現在の外来の最終日は４月７日となり、４月８日～12日

は病院の移転に伴う休診日と聞いている。

　・場所は、現在建設工事を進めている登別東町３丁目になっており、鉄筋コンクリート造の３階建てとなる。

　・診療科は現在と同じ７科で、整形外科、内科、脳神経外科、外科、泌尿器

科、麻酔科、リハビリテーション科となっている。病床数は110床で、一

般病棟55床、介護付病棟55床と聞いている。

（JCHOについての意見・質問について）

質問：７科は毎日やっているのか。

　回答：日によって診療科が決まっている。

　質問：通院する方へのバスはないのか。

　回答：現在、無料の送迎バスを運行しており、４月以降も引き続き運行する

と聞いている。